

練習を始める前に

全10問 | 小さな練習から、まとまった作文へ

名前

日付

二百字の作文では、限られた長さの中で、中心と根拠を読み手に届ける必要があります。このドリルでは原稿用紙の使用マス数を基準にし、八・九は百八十～二百マス、十は二百マスちょうどで書きます。数を合わせるだけでなく、何を残し、何を削るかを説明できるようにしましょう。

問1～4 基礎／問5～7 標準／問8～10 応用。自分で書いてから、解答解説の例と確認基準を読みましょう。作文の内容は一つに決まりません。

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来るときは、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

取り組み終わったら、できた問に印を付けましょう。

問1〔 〕 問2〔 〕 問3〔 〕 問4〔 〕 問5〔 〕

問6〔 〕 問7〔 〕 問8〔 〕 問9〔 〕 問10〔 〕

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問1 使用マス数を計算する

一行二十マスの原稿用紙に、次の二通りで書く。それぞれの使用マス数を、計算の過程とともに示しなさい。

考える材料

- ア「資料を読む。要点を記す。」を一段落で書く。
 - イ「資料を読む。」で段落を変え、次の段落に「要点を記す。」と書く。
- ※文を囲むかぎかっこは書かない。

条件

- 1 段落冒頭の空白を含める。
- 2 途中の段落末の空白は含め、作文末尾より後の空白は数えない。

確認 段落の前後にできる空白を、指定通りに数えたか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問2 一つの中心を選ぶ

文化祭準備の経験を二百字で伝えるための材料を選びます。中心を一つ決め、それを支える材料を二つ選びなさい。ここでは作文の全文は書きません。

考える材料

架空の材料：係の希望が重なった／目立つ仕事に人気が集まった／必要な仕事を一覧にした／各仕事の役割を話し合った／担当が分かれ、準備を進められた／帰り道で雨に降られた。

条件

- 1 中心を、経験から得た考えとして一文で書く。
- 2 中心を支える行動と結果を一つずつ選ぶ。

確認 残す材料が、中心を説明するために必要か。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問3 配分を考えて構成する

校外学習の計画を見直した経験を書く。背景二行、行動と結果六行、考察二行を目安とし、各部分の使用マス数と内容をメモしなさい。

考える材料

架空の材料：見学先を増やしすぎた／移動時間を地図で確認した／訪問先を絞った／最も見たい展示に時間を使えた／目的を決めて優先順位を付ける必要を感じた。

条件

- 1 一行二十マスとして計算する。
 - 2 行動と結果に、全体の半分以上を配分する。
 - 3 合計二百マスの目安を作る。
-
-
-
-
-
-

確認 最も伝えたい判断に、十分な長さを使えているか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問4 重複を削って意味を保つ

二つの文を、重複を減らして短い二文に直しなさい。行動と結果は残すこと。

考える材料

班員全員が一人も残らず、それぞれ自分の考えた案を付箋に書いて記入した。そうした方法で行ったため、話し合いでは全員の案を一つずつ並べて比較して比べることができた。

条件

- 1 二文にする。
 - 2 全員が案を書いたことと、比較できたことを残す。
 - 3 意味の重なる表現を二か所以上削る。
-
-
-

確認 短くすることで、誰が何をしたか不明になっていないか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問5 短すぎる説明に根拠を足す

結論だけの文に、材料を使って具体的な説明を加え、二文か三文にしてください。中心と関係のない出来事で長くしないこと。

考える材料

元の文：相手に合わせた説明が大切だ。
架空の材料：小学生への部活動紹介／練習名だけでは意味が伝わらないと指摘された／専門用語を具体的な動作に言い換えた／実際の聞き手の反応は、まだ確認していない。

条件

- 1 指摘された問題と、変更した説明を含める。
- 2 聞き手に必ず伝わった、とは断定しない。
- 3 二文か三文にする。

確認 足した部分が、結論を納得できるものになっているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問6 削ってはいけない限定を選ぶ

下書きから短くするために削るなら、どの部分が適切か。一つ選び、その理由と、残すべき限定を一つ書きなさい。

考える材料

下書き：今回の班では、発言前に案を書くと全員の案を比較できた。話し合いは放課後、白い壁の教室で行った。この結果を踏まえ、別の班でも試したい。

候補：ア「今回の班では」／イ「白い壁の」／ウ「別の班でも試したい」。

条件

- 1 中心を、案を書く方法の効果と検証とする。
- 2 選んだ部分を削っても中心が変わらない理由を書く。
- 3 結論の範囲を示す表現は残す。

確認 圧縮した文の方が、元の文より強い断定になっていないか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問7 推敲の順序を決める

下書きは使用マス数が二百十八マスだった。示された材料から、最初に削る候補を一つ、残す材料を二つ挙げ、修正後の確認方法を書きなさい。

考える材料

中心：引き継ぎ資料を、後任が使いやすい形に直した経験。

材料：作業名だけでは手順が分からなかった／準備物と順序を追記した／昼食のメニュー／後任に読んでもらい、不明点を修正した。

※下書き全体は示していないため、削減できるマス数はまだ確定できない。

条件

- 1 中心から離れた材料を先に削る。
 - 2 行動と確認の過程を残す。
 - 3 使用マス数と意味の両方を確認する。
-
-
-
-
-
-
-

確認 まだ確かめていない削減量を、決めつけていないか。

問8 判断と結果を二百マスに収める

応用 | 使用マス数 180～200マス

名前 _____ 日付 _____

文化祭の準備を振り返り、役割分担について学んだことを書きなさい。自分の経験でも、下の架空の経験でもよい。

考える材料

架空の材料：希望する係が重なった／目立たない準備の仕事が残った／必要な仕事を一覧にした／各仕事の本番をどう支えるか話し合った／担当が分かれた／欠かせない役割を共有する重要性に気付いた。

条件

- 1 使用マス数：百八十～二百マス。一段落。
- 2 課題、判断や行動、結果、考察を含める。
- 3 長さのために、中心と無関係な出来事を加えない。

構成メモ

中心：役割分担の何を学んだか

根拠：行動と結果

推敲：残す説明と削る説明

問8 判断と結果を二百マスに収める 本文

使用マス数 180～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 短くしても、なぜその学びを得たのかが伝わるか。

読み返して直したいところ

直した理由

問9 段落の空白も含めて整える

応用 | 使用マス数 180～200マス

名前 _____ 日付 _____

校外学習の計画を見直した経験を、後輩への助言につながる作文にしてください。下の架空の経験を使ってよい。

考える材料

行きたい場所をすべて予定に入れた／移動時間を調べると、展示を見る時間がほとんど残らなかった／学習の目的に照らして訪問先を絞った／最も調べたい展示の時間を確保できた。

条件

- 1 使用マス数：百八十～二百マス。二段落。
- 2 一段落目に課題・変更・結果、二段落目に考察と助言を書く。
- 3 途中の段落末の空白も使用マス数に含める。

構成メモ

一段落目：計画をどう直したか

二段落目：なぜその判断が必要か

調整：段落末の空白も数える

問9 段落の空白も含めて整える 本文

使用マス数 180～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 段落を分けた後、使用マス数を改めて確認したか。

読み返して直したいところ

直した理由

問10 二百マスちょうどに推敲する

応用 | 使用マス数 200マスちょうど

名前

日付

「改善のために、他者と確かめ合った経験」を、二百マスちょうどで書きなさい。自分の経験でも、下の架空の経験でもよい。初めは内容を優先し、書いた後で長さを調整すること。

考える材料

架空の材料：合唱練習で声がそろわない／各自が大きな声を出すだけでは改善しない／録音と一緒に聞く／歌い始める位置がずれていると気付く／息を吸う合図を決める／次の練習で入り方がそろろう／努力の量だけでなく課題の共有が必要だと考える。

条件

- 1 使用マス数：二百マスちょうど。一段落。
- 2 課題、確かめたこと、改善の行動と結果、考察を含める。
- 3 冒頭の空白を含め、題名と氏名は数えない。

構成メモ

必要な説明：課題と確認

中心：改善の行動と結果

調整：結論の根拠を残す

問10 二百マスちょうどに推敲する 本文

使用マス数 200マスちょうど | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 二百マスを確認した後、根拠と結論のつながりも読み直したか。

読み返して直したいところ

直した理由